

## 久留米市卸売市場運営協議会（会議録要旨）

日 時：令和3年10月26日（火）10：30から

場 所：久留米市中央卸売市場 管理事務所会議室

出席者：委員総数22名中20名出席

（リモート：3名）

（欠席者：2名）

傍聴者：なし

### 次 第：1 開会

（1）委員紹介

（2）久留米市卸売市場運営協議会について

（3）正副会長の選任について

### 2 議題

（1）第11次市場施設整備計画について（案）

（2）『新市場活性化推進計画～経営展望～』の総括について（案）

#### 1、開会

（1）委員紹介

|     |           |
|-----|-----------|
| 事務局 | 委員及び事務局紹介 |
|-----|-----------|

（2）久留米市卸売市場運営協議会について

|     |              |
|-----|--------------|
| 事務局 | 協議会の役割について説明 |
|-----|--------------|

（3）正副会長の選任について

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 事務局 | 会長に栗原委員、副会長に原委員を決定 |
|-----|--------------------|

#### 2、議題

（1）第11次市場施設整備計画について

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 事務局 | 【配布資料 第11次久留米市卸売市場整備計画の説明】 |
|-----|----------------------------|

（2）新市場活性化計画の総括について

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | 【配布資料 『新市場活性化推進計画～経営展望～』の総括の説明】                             |
| A委員 | 活性化について、開設者としてどのように関わっていくのか。                                |
| 事務局 | 開設者として、卸売業者・仲卸業者・売買参加者が一体となって協議できる場を作り、売上高・集荷対策に関わっていく。     |
| A委員 | 市場流通の働きかけを行っているのか。  |
| 事務局 | 福祉施設や保育園の担当部局と連携しながら、農業の魅力促進課と地産地消の推進に加え、市場の積極的な活用を働きかけている。 |

|               |  |
|---------------|--|
| A委員           | 連携だけでは、開設者の関わりが薄くないか。  |
| 事務局           | 活性化推進計画ではそれぞれの役割分担のもと、商取引の部分に関しては市場関係者の役割としている。開設者は信頼構築の場の設定や、情報発信などの役割を担っている。   |
| B委員<br>(議長代行) | 市が、社会福祉法人や医療法人や保育園の会議に行き、地産地消、市場活用の依頼をすべきではないか。  |
| 事務局           | H30年度は、放課後等デイサービスを行う児童支援事業者や障害者福祉サービス事業者の会議を活用し、地産地消、市場活用を働きかけている。H31、R1年度は、保育協会、認定こども園連絡会、老人福祉協議会、介護福祉サービス事業者協議会へ働きかけている。本年度は直接訪問することができなかったため、所管部局と連携し、メーリングリストを活用した文書の送付により働きかけを行った。今後もこのような取組みを継続していきたい。   |
| C委員           | 開設者、場内関係者が意見交換の場を設けている。価格を約束できるようにするため、どういう付加価値をつけて安定した価格を約束できるかを話しているところである。  |
| A委員           | 残留農薬の件は、ある一定解決したと説明を受けているが、状況はどうなっているのか。また、使用料の件について、市はどのように解決していくのか。  |
| 事務局           | 残留農薬の件について、現在までに価格は従前の価格に戻っているが、一部の大手量販店では、未だに筑紫次郎の贈り物のパッケージは納品不可となっている。使用料については、4月以降、昨年分まで含め使用料徴収を行っている。  |
| D委員           | 残留農薬の対策について、今後、このようなことが絶対に起こらないような体制作りに取り組んでいる。  |
| E委員           | 残留農薬の件については、マスコミにも報道され、非常に間違った捉え方をしている人が多い。残留農薬の報道で、全く関係のない久留米市中央卸売市場オリジナルブランドである筑紫次郎パッケージの写真が使われた。そのため、一部量販店では筑紫次郎の贈り物のパッケージは納品不可となっている。これは風評被害である。生産者に一年後の出荷から筑紫次郎の贈り物のパッケージを使ってもらえないかお願いしに行き、今では筑紫次郎のパッケージを現場で見えるようになった。ふるさと納税の商品として、筑紫次郎の農産物セットを出すか検討している。 |